

● 総合治水を学ぶ本 ●

みんなで取り組もう!

「総合治水」

水害から命と暮らしをまもるために



兵庫県マスコット はばタン

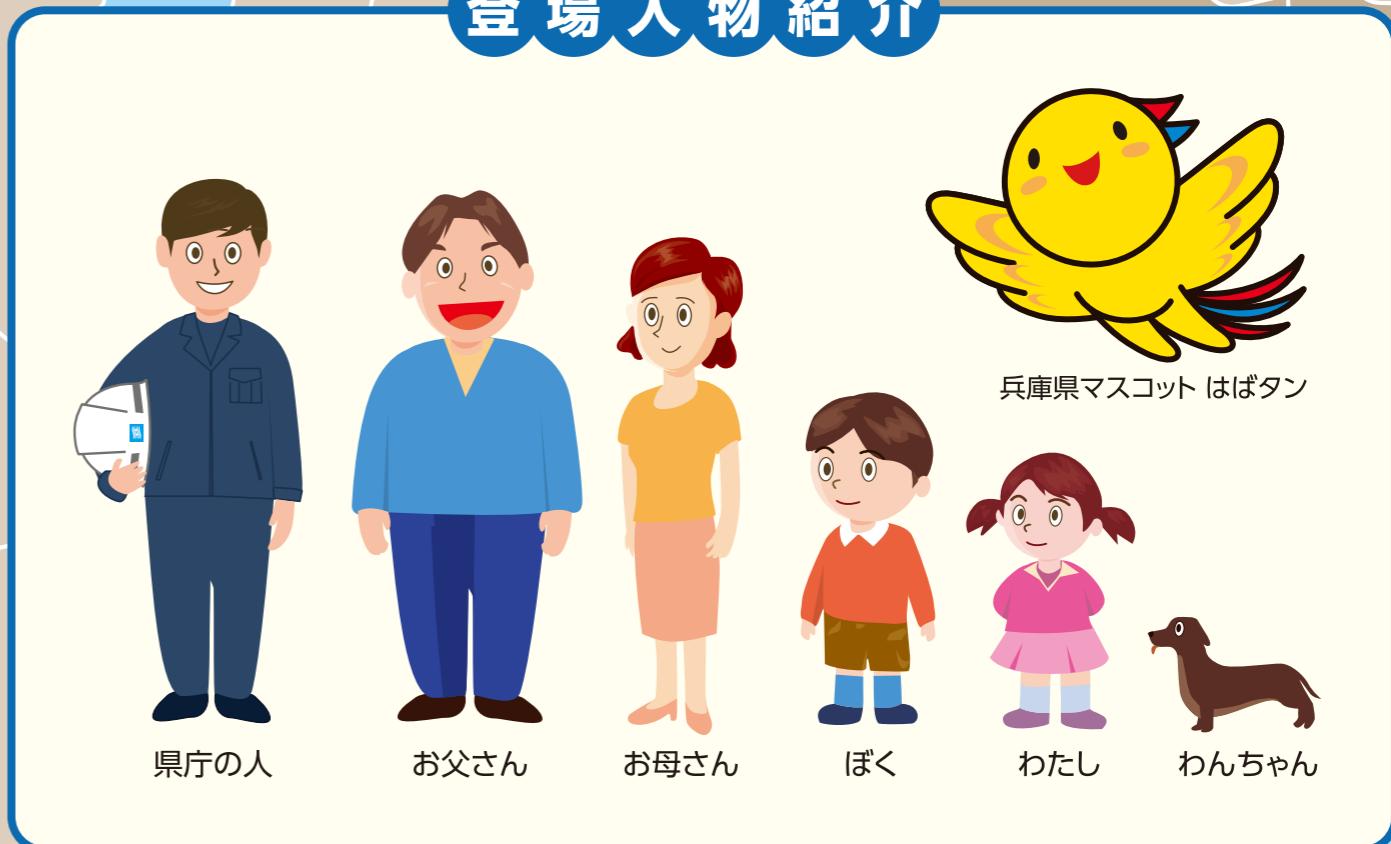
最近、大雨による水害が増えていきます。
水害からみんなの命と暮らしをまもるには
「総合治水」に取り組むことが必要です。
この本で「総合治水」について学びましょう。



もくじ

- ① どうやって水害から命と暮らしをまもるの? P2~6
- ② 家庭ができる「総合治水」 P7~15
 - 「ためる」取り組み P8~9
 - 「そなえる」取り組み P10~15
- ③ 行政と地域で取り組む「総合治水」 P16~23
 - 「ためる」取り組み P17~21
 - 「ながす」取り組み P22
 - 「そなえる」取り組み P23

登場人物紹介



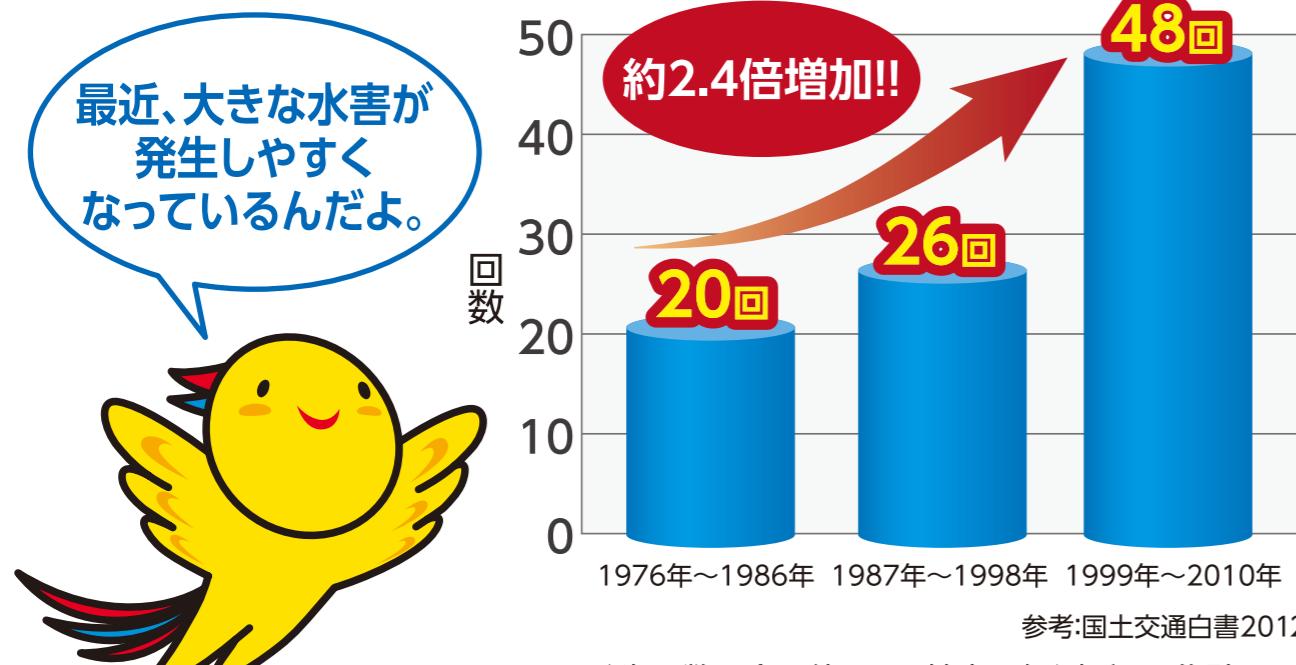
① どうやって水害から命と暮らしをまもるの?

最近、大雨による水害のニュース
を聞くことが多くなっています。
なぜ水害が増えているのか、
そして水害からみんなの命と
暮らしをまもるための方法を見て
みましょう!



大雨のふる回数が増えて、
水害が頻繁に発生しています。

1時間100mm以上の雨の発生回数(約10年間あたり)



1時間100mm以上の大雨がふる回数は30年前と比べて約2.4倍に増加しています。

100mmを超える猛烈な大雨は、息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じます。傘はまったく役に立たなくなり、水しぶきで辺り一面が白っぽくなり、視界が悪くなります。



1時間雨量100mmのイメージ

最近起きた兵庫県の大きな水害



平成21年台風9号による被害
(千種川水系佐用川)



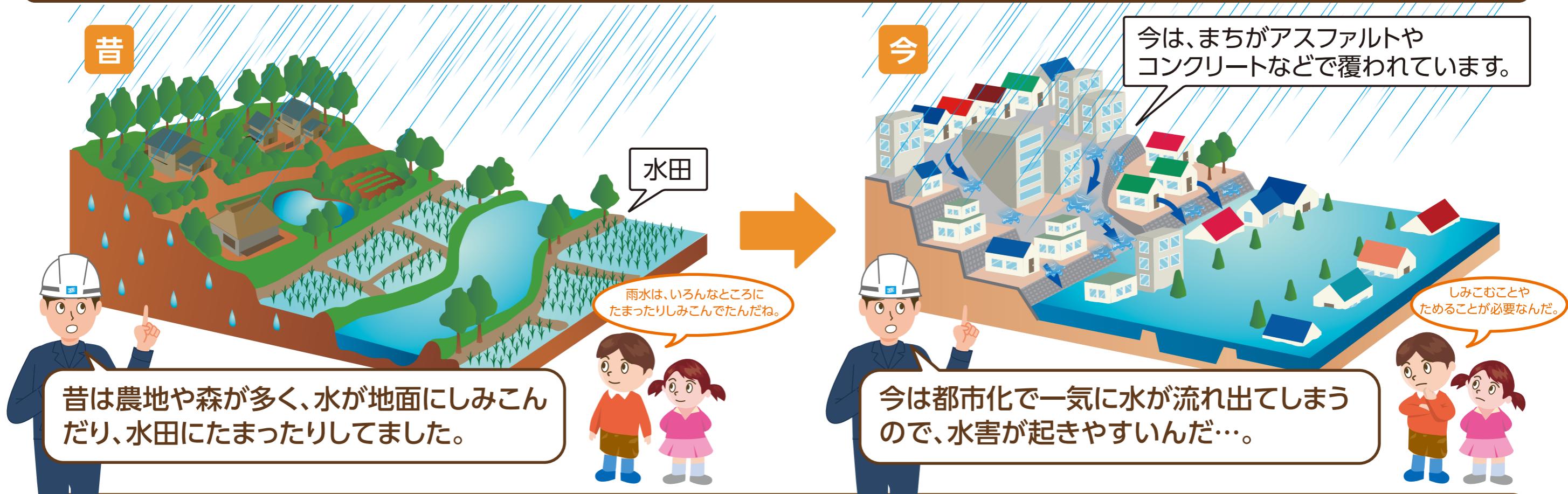
平成23年台風12号による被害
(加古川水系杉原川)



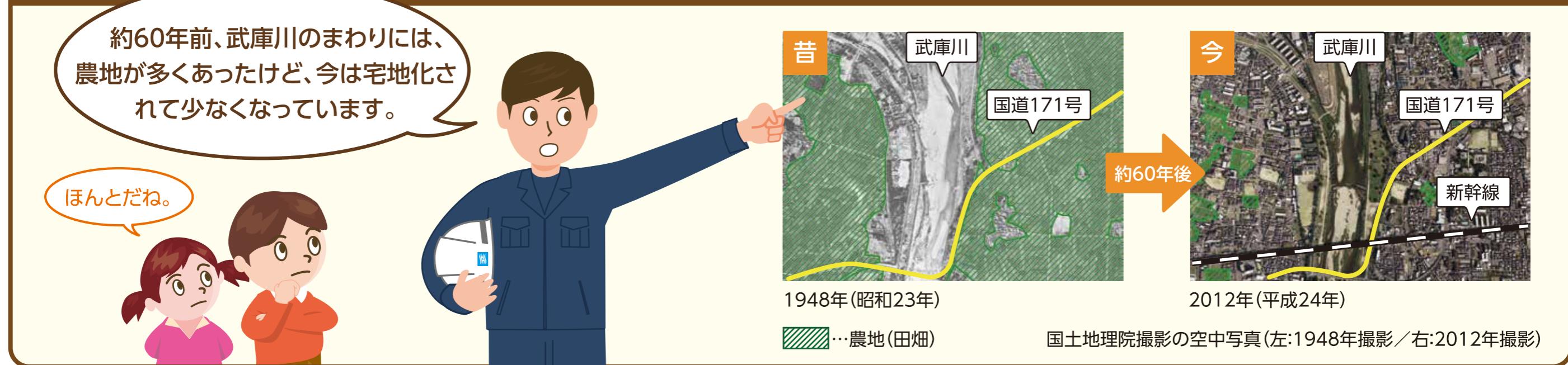
大雨で道路が水浸しになっている様子
(神戸市内)



都市化が進んで、水害の危険性が高くなっています。



武庫川の昔と今のちがい



水害から命と暮らしをまもるために、私たちにできることがあります。

降った雨を、早く安全に「ながす」対策だけでなく、「ためる」「そなえる」対策にも取り組むことで、大型化する台風や頻発する局地的大雨による水害を少しでも軽減する取り組みが、『総合治水』です。

「ためる」取り組みは、地域にある施設を使い、雨水をためることや地面にしみこませることで、川へ一気に流れ出すことを防ぎます。
 「そなえる」取り組みは、浸水に関する情報を事前に知り、水害に対応できる準備をすることで、いざという時に命や財産を守る行動ができるようにします。

今までの取り組み



川や下水道で流せる水の量を増やすための対策



河川の整備



雨水が川へ一気に流れ出さないための対策



大雨による被害を小さくするための対策



これからの取り組み



川や下水道で流せる水の量を増やすための対策



河川の整備



雨水が川へ一気に流れ出さないための対策



大雨による被害を小さくするための対策



① どうやって水害から命と暮らしをまもるの?

大雨による水害から命と暮らしをまもるために、県民みんなで「総合治水」に取り組みましょう。



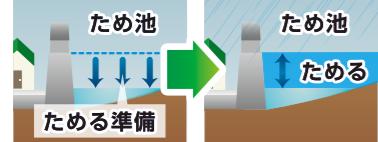
①ためる

森をまもってためる



②ためる

ため池でためる



水田で
さらにためる

断面図:セキ板あり

(通常)

(セキ板設置時)



浸水する
範囲を
知る



④ためる

土の地面や森が減った
かわりに池をつくってためる



タンクで
ためる



グラウンド
でためる



避難
訓練を
する



①そなえる

川の
水位や
雨の状況
を知る



集落を
まもる



ダムを
つかって
川の水を
調節する



①ながす

ダムを
つかって
川の水を
調節する



②ながす

川を大きくして流せる水を増やす



へいを
つくる